

こんにちわ。さて、先日の続きを書かせて頂きます。拘束されている環境から開放され、本当に当たり前のことが どれだけありがたいのかを身をもって知ることができました。普段、当たり前と思っていることが 本当は凄く大切なことだったりするものですね。その大切さが当たり前になり、もっともっと何かを求めてしまう。

ホント、人間って欲張りですね・・・

さて、私は少年院を出て数時間後、自宅(養親の家)に着きました。

自宅に着くと、養親がこれからのことで話をしたいという。

私は養親を目の前にして席に着く。すると、養親は私に100万円を差し出した。

「このお金を持って家を出てほしい・・・離縁してほしい・・・」

その一言を養父から告げられた。 離縁!? なぜ・・・???

私は養親が言う「離縁」という言葉の意味がわからなかった・・・

でも、声にして養親に聞くことができなかった。 数分間・・・

沈黙が続いた・・・そして、沈黙を破ったのは、

大きな声で泣き崩れる養母であった。 養父の目には大きな涙が。

養父が席を立ち、用意してあった私の荷物を私の目の前に置いた。 「尚人、元気でな」

「さようなら・・・」 その言葉を聞かされた私は今までにはない、大きな声で泣いた。

泣き崩れた。 幼い子供のように足をバタバタさせながら・・・

泣き止んだ私は、家を出なければならぬ現実を飲み込み、養親を見つめながら

「今までありがとう」と一言を小さな声でつぶやいた。

そして、100万円と大きなバックを持って家を出た。

外はもうすっかり真っ暗になっていた。私はバスに乗り、繁華街まで出た。

そしてその日は繁華街を一晩中、ただ、歩き続けた・・・

翌日、私は不動産屋に行きここで現実を目の当たりにする。

部屋を借りるのに保証人が必要なのだ(汗)

結局、私には保証人がいないため部屋を借りることができず、

その後、駅や公園で生活することになる。 私は将来の自分のことを何も考えずに、

ただひたすら養親を毎日恨んだ。 そして、ある日疲れきった私は

「自分はこの世に必要な人間なんだ」と思い・・・